

第2次関ヶ原町のちをつなげる自殺対策計画 概要版

計画の全体像

計画書 P1

計画期間：令和8年度～令和12年度

今回策定する「第2次関ヶ原町のちをつなげる自殺対策計画」は、平成18年に制定された自殺対策基本法、翌平成19年に策定された自殺総合対策大綱、および岐阜県が策定した「第4期岐阜県自殺対策行動計画」と連動しながら、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指して自殺対策を推進していくための計画です。

自殺対策にかかる基本認識

計画書 P2

自殺は、健康問題、経済・生活問題、人間関係の問題のほか、地域・職場の在り方の変化など様々な要因とその人の性格傾向、家族の状況、死生観などが複雑に関係しています。自殺は「その多くが追い込まれた末の死であり、その多くが防ぐことができる社会的な問題」であるとの基本認識の下、自殺対策を「生きることの包括的な支援」として、社会全体の自殺リスクを低下させるとともに、一人一人の生活を守るという姿勢で展開するものです。

基本目標

こころといのちを支え合えるまちづくり

基本施策

地域におけるネットワークの強化 計画書 P28

- (1) 自殺やこころの病気に関する実態把握
 - 自殺の実態把握
 - 自殺未遂者や遺族の状況の把握
 - こころの健康調査 ほか
- (2) 関係機関・団体との連携
 - 自殺予防行動推進協議会
 - 西濃保健所管内の連携
 - 在宅医療介護連携 ほか
- (3) 各種施策・事業との連携
 - ヘルスプランせきがはらの連携
 - 地域福祉の推進と自殺対策の連動
 - 地域ケア会議を活用した連携 ほか

自殺対策を支える人材の育成 計画書 P31

- (1) 地域における人材(ゲートキーパー)の育成
 - ゲートキーパーの役割の理解と周知
 - ゲートキーパー養成講座の実施
 - ゲートキーパー研修の受講推奨
- (2) 様々な職種を対象とする研修の実施
 - 民生・児童委員による地域の相談・支援等の実施
 - 地域役員等の人材育成
 - 福祉推進員を対象とした研修や講座の実施
 - 傾聴ボランティアの養成
 - 職員のゲートキーパー研修の受講 ほか

住民への啓発と周知 計画書 P33

- (1) 普及啓発活動の推進
 - 自殺予防週間等における啓発
 - 広報等による啓発
 - ポスター・標語コンクールによる啓発 ほか
- (2) 情報提供
 - パンフレット等の配布
 - 関係団体等への情報提供
 - 高齢者健康保持増進事業と合わせた情報提供
 - 相談機関の周知
 - 地域福祉のPR ほか

生きることの促進要因への支援 計画書 P37

- (1) 相談窓口の充実
 - 岐阜いのちの電話の周知
 - 保健師による相談
 - おとなの健康・介護相談 ほか
- (2) 休養・こころの健康づくり
 - 妊娠中からの支援
 - 子育ての孤立化の防止
 - サロンの普及 ほか
- (3) 安心して過ごせる居場所の設置
 - 家庭教育学級
 - こどもの居場所づくり
 - ふれあいいきいきサロン活動、老人クラブ活動 ほか

重点施策

高齢者に対する支援 計画書 P42

- (1) 包括的支援に向けた連携
 - 家庭訪問
 - てんとうむしくらぶ
 - 出前講座を通じた高齢者の把握と支援
 - 地域ケア会議 ほか
- (2) 生きがいづくり
 - ふれあいいきいきサロン活動、老人クラブ活動
 - ふれあい会食の開催
 - 認知症カフェ ほか

子ども・若者に対する支援 計画書 P44

- (1) 児童生徒のSOSの出し方に関する教育
 - 子どもの人権SOSミニレター
 - SOSの出し方についての周知
- (2) 支援体制の推進
 - 産後ケア事業
 - 家庭教育学級、子育てコミュニティ
 - 子育て短期支援事業
 - 子育て支援拠点施設における相談体制の充実
 - こどもの居場所づくり ほか

勤労者に対する支援 計画書 P46

- 労働に関する相談
- おとなの健康・介護相談
- 精神保健福祉相談
- 心配ごと相談
- 労働に関する相談、メンタルヘルス対策
- 睡眠・休養に関する普及啓発
- こころの健康相談
- 法律と心の相談 ほか

生活困窮者に対する支援 計画書 P47

- 心配ごと相談
- 多重債務、消費生活、生活トラブル(近隣トラブル)、町営住宅対応、事件・事故等の相談
- 生活困窮者自立支援制度に基づく支援 ほか

数値目標

指標	第2次策定時	令和12年目標値
関ヶ原町 自殺者数	(令和元年～令和5年) 6人	(令和7年～令和11年) 3人以下

評価指標①

指標	第2次策定時(令和6年)	令和12年目標値
SOSの出し方に関する教育の実施	1回	1回以上

評価指標②

「第3次ヘルスプランせきがはら」休養・こころの健康の目標指標より

指標	第2次策定時(令和6年)	令和12年目標値	
最近ストレスを強く感じた人の減少 *ここ1か月ストレスを強く感じた人	中学生	18.3%	15.0%以下
	青壮年期(16～64歳)	28.9%	25.0%以下
	高齢期(65歳以上)	11.0%	11.0%以下
自分にあったストレス解消をしている人の増加 *ストレス解消が「十分できている」又は「何とかできている」人	青壮年期(16～64歳)	61.2%	70.0%以上
	高齢期(65歳以上)	73.0%	84.1%以上
悩みの相談相手がいる人	小学生	95.2%	90.0%以上
	中学生	84.1%	90.0%以上
	青壮年期(16～64歳)	85.1%	90.0%以上
	高齢期(65歳以上)	80.8%	80.0%以上
睡眠で休養がとれている人の増加 *ここ1か月日頃の睡眠で疲れがとれているか 成人：「十分とれている」「まあまあとれている」の合計 高校生：アンケート項目として実施していない	20～64歳	47.7%	50%以上
	高齢期(65歳以上)	71.2%	75%以上
	健康日本21 目標：80%(令和14年)		
自分は健康で楽しく生活できていると感じている人の増加	中学生	78.6%	80.0%以上
	青壮年期(16～64歳)	74.9%	80.0%以上
	高齢期(65歳以上)	72.1%	80.0%以上